



# 安定的な収益基盤の確立に向けた 新中期経営計画「Challenge 2025」 がスタート

### 過去最高益で中期経営計画の目標を達成

2022年度は中期経営計画「Small but Beautiful」の最終年度であり、三菱自動車にとって節目の一年でした。コスト低減努力や各国での販売の質改善活動の推進など、全社一丸となってあらゆる課題に取り組みました。その結果に為替の追い風が加わり、中期経営計画の目標を上回る業績を達成しました。特に2021年度から推進している「手取り改善活動」が成果を上げました。これは工場出荷から納車までのプロセスを見直し、台当たり売り上げ単価を最大化する取り組みです。この成果により、会社の“地力”が向上し、新たなステージに入る準備が整いました。

商品面では、日本で三菱自動車らしい「環境×安全・安心・快適」を具現化した気軽を選べる軽EVとして『eKクロスEV』を発売しました。先進の運転支援機能やコネクティッド技術によって、安全・安心で快適な走りを提供できるクルマとなっています。さらに、軽商用EVの先駆けである『ミニキャブ・ミーブ』は、物流関連企業や自治体などを中心に需要が高まっており、一般販売を再開しています。

海外では、2023年3月より欧州においてコンパクトSUVの新型『ASX』の販売を開始しました。新型『ASX』は、ルノー・日産・三菱自動車アライアンスによる共通プラットフォームを採用したコンパクトSUVで、ルノーからOEM供給を受けています。一方、当社グループの最重要市場であるアセアンでは、前中計から開発を進めてきたアセアン向け車種として、8月に新型『エクスフォース』をインドネシアの国際オートショーで世界初披露、また、7月に新型『トライトン』をタイで開催した新型TRITON World Premiereで発表、発売開始しました。これらを順次他国へも展開していくことで、さらなる成長を目指して参ります。

### 新中期経営計画「Challenge 2025」のもと 研究開発費と設備投資を安定的に投じ持続的 成長を実現します

2023年3月、当社グループは2025年度を最終年度とする新中期経営計画「Challenge 2025」を発表し、新たな価値創造のストーリーを描いています。自動車業界は、地

球温暖化対策とテクノロジーの進化により、人の移動とモノを運ぶための手段であった自動車の役割が大きく変化し、一つの大変革の時代を迎えています。

この時代の転換点と捉えた次の3年間に、当社グループは変革を進めていきます。新中期経営計画「Challenge 2025」は、これまでの構造改革によって鍛えられた経営基盤を活かし、地域戦略の選択と集中、そして「手取り改善活動」を維持することにより安定的な収益基盤の確立を目指します。

同時に、これまで以上に研究開発と設備投資に注力し、電動化、IT分野、新事業への投資を増やすことで、持続的な成長を追求します。商品面では、気候変動問題の解決とカーボンニュートラルの実現に向けて電動化を推進し、地域戦略を更に強化し、各地域の特性を最大限に生かした経営資源の配分を行います。新たな収益源を創出するため、事業面でもバリューチェーンの拡大と新規事業の展開に挑戦します。

そして、今後も当社グループは「モビリティの可能性を追求し、活力ある社会をつくる」というビジョンのもと、カーボ

ンニュートラルの実現、人権尊重、多様な人材が活躍できる職場の確立、そしてすべてのステークホルダーに対する透明性の高い経営を目指して参ります。

「Challenge 2025」は、当社のみならず自動車業界の未来を切り開くための挑戦の物語であり、持続的な発展と社会への貢献を追求する使命を背負った新たな一歩です。

三菱自動車工業株式会社  
取締役代表執行役社長 兼 最高経営責任者  
加藤 隆雄

加藤 隆雄